

## 2001 年度「ネットワーク医療と人権 <MERS>」活動報告

ネットワーク医療と人権

事務局長 太田裕治

ネットワーク医療と人権は、「薬害エイズ」の教訓を生かすべく、薬害の再発防止、より良い医療が享受できる社会の実現、感染症患者・遺族に対する差別撤廃などを目的に掲げて、2000年9月23日任意団体として発足しました。そして、2001年6月23日法人設立総会を開催し、同年11月9日付で大阪府知事から特定非営利活動法人（いわゆるNPO法人）の認証を受けました。したがって、ネットワーク医療と人権（以下、MERS）では、任意団体設立から数えれば2001年度が2期目（2年目）の事業年度にあたりますが、法人としては当年度が初年度の活動ということになります。そのような経過で本年6月30日MERSは正会員（社員）を招集して総会を開催し、2001年度における事業活動報告と会計書類の承認を得たので、昨年度におけるMERSの活動内容をかいつまんで報告致します。

### 【1】薬害エイズ真相究明事業／調査研究事業

MERSでは「薬害エイズ」の真相究明を最も基本的な事業に据えており、発足当初から当該事業の一環として、血友病の医療現場を検証すべく、被害者本人・遺族・医療関係者への聞き取り調査を計画してきました。昨年度は、当調査を計画的に遂行するため、調査研究全体を統括する調査研究委員会（委員長は養老孟司氏）の立ち上げと実際に現場調査を行う作業部会（メンバーは社会学研究者）を設置しました。調査の進捗状況としましては、医師に対する準備調査または医師・MERSスタッフを交えての研究会を実施しました。聞き取り調査に関しては、随時対象者を拡大していった本格的調査へと移行させていく予定です。また、過去の資料・文献の検索と情報収集を同時並行して行っています。第一次報告については、ある程度作業部会の解析と委員会での承認手続を経て、2002年度後半には発表されることになろうかと思えます。

### 【2】フォーラム・シンポジウム等開催事業

MERSの活動や「薬害エイズ」について広く社会の人々に知ってもらう目的と社会啓発の意味を兼ねて、シンポジウムなどのイベントを行いました。昨年度は、後記のとおり、主催、共催を併せて4回開催することができました。特に、「薬害エイズ」における安部英氏への無罪判決は、社会的関心を呼び、私たちとしても改めて検証すべく弁護団の協力を得て模擬裁判という手法で論点を整理してみました。この結果についてはニュースレターNo.3に掲載しましたが、三つの刑事事件のなかでも、最も微妙な問題を含んだ内容だけに、その責任追及だけでなく、たくさんの真実と教訓をこの裁判の中から獲得していきたいと考えています。

### 【3】その他

- (1) 薬害エイズ被害者活動の支援
  - ・原告団が行う事業・活動の補助
  - ・関連会議、協議、イベント等への参加

- (2) WFH 主催「血友病アジア・太平洋会議」への出席
- ・開催場所：ニュージーランド・クライストチャーチ
  - ・日 程：10月17日～10月21日
  - ・主目的：WFH 幹部との会談、ワークショップでのプレゼンテーション
    - \* WFH から日本への連盟参加要請に対して、日本の実状を伝える。
  - ・トピックスなど
    1. 会議の大きなテーマとしては、Safety and Supply (血液製剤の安全性と供給)。医学的話題としては、vCJD、遺伝子治療。
    2. ブライアン・オマホーニーWFH 会長、同理事・CDC 所属医師ブルース・エバット氏らの来日 (2002 年内来日) 決定。
      - \* 参加報告は、血友病患者支援団体「ケアーズ」の機関誌に投稿。
- (3) ニュースレター発行
- ・第2号を2001年8月に発行
- (4) 主な会議・行事等への出席
- ・水俣病シンポジウム (2001. 5. 9 大阪市大)
  - ・日本赤十字社シンポジウム (2001. 8. 4 大阪)
  - ・薬害根絶フォーラム (2001. 8. 25 横浜)
  - ・血液事業部会 (2001. 8. 31、2002. 2. 1 東京)
    - \* 内容：血液製剤供給問題協議、新血液法案要綱案協議
  - ・松村判決集会 (2001. 9. 28 東京)
  - ・日本エイズ学会総会・学術会議 (2001. 11. 29～ 東京)
  - ・日本赤十字社血液事業フォーラム (2002. 1. 28 東京)
    - \* 内容：現在の献血スクリーニング及び血液製剤の安全システムに関する勉強会
  - ・PPTA 主催 BSE/CJD ワークショップ (2002. 3. 23 東京)
    - \* 内容：CJD/BSE に関する各国の対応と製薬企業の研究発表
- (5) 大阪 HIV 訴訟を支える会 (ビヨンド) の機能一部移行を検討
- ・「薬害エイズ」裁判情報の発信等
    - \* 1996 年より続いてきた「支える会」が 2002 年度中に発展的解消を取り決めた。それに伴い MERS では、今までビヨンドが担ってきた役割の一部を引き継いで、社会に向けて刑事裁判情報の発信などを継続していくことを検討し始めた。

## シンポジウム等開催事業

- (1) 2001 年 5 月 19 日
- 会 場：関西大学千里山キャンパス 社会学部 2 階 202 教室
- テーマ：安部英被告無罪判決について思うこと
- 内 容：山西美明氏 (弁護士) による事件概要と判決解説  
櫻井よしこ氏の講演など
- 主 催：大阪 HIV 薬害訴訟原告団、同弁護士
- 共 催：ネットワーク医療と人権
- 参加者数：130 名
- (2) 2001 年 12 月 19 日
- 会 場：立命館大学衣笠キャンパス恒心館 730 教室

テーマ：弁護士が再現するあの裁判

内 容：

1. 立命館学生による「薬害エイズ」の経過説明
2. 安部英医師業務上過失致死事件模擬裁判

出演：花井十伍、石川寛俊氏(弁護士)、徳永信一氏(弁護士)

主 催：ネットワーク医療と人権

協 力：立命館大学学生有志

参加者数：40名

(3) 2002年2月17日

会 場：主婦会館プラザエフ9階

テーマ：安全な血液の供給を目指してー血液新法への提言ー

内 容：血液新法要綱案の報告と討議

シンポジスト：林いづみ氏、草刈隆氏、三星勲氏、清水勝氏、鈴木利廣氏

主 催：はばたき福祉事業団、ネットワーク医療と人権

参加者数：200名

(4) 2002年3月16日

会 場：ドーンセンター（大阪市立女性総合センター）5F 特別会議室

テーマ：薬害被害者が医療を問う

内 容：NPO 法人格取得記念行事

1. 養老孟司氏による記念講演「現代の医療について思うこと」
2. シンポジウム「薬害被害者が医療を問う」

出演：花井十伍(薬害エイズ)、増山ゆかり氏(サリドマイド)、  
佐竹美根子氏(スモン)、高原和幸氏(薬害ヤコブ)

主 催：ネットワーク医療と人権〈MERS〉

共 催：大阪 HIV 訴訟を支える会〈ビヨンド〉

参加者数：120名